

# 平成24年度 尾瀬傷病事故統計

(尾瀬山の鼻・尾瀬沼ビジターセンター対応記録等から)



(山の鼻ビジターセンターにおける救命救急研修)

平成25年3月

財団法人 尾瀬保護財団

## 目 次

1	入山者数の状況.....	1
2	傷病事故の発生状況 .....	2
	(1) 年別発生状況 .....	2
	(2) 地区別発生状況 .....	2
	(3) 原因別発生状況.....	3
	(4) シーズン別発生状況.....	3
	(5) 月別発生状況 .....	4
	(6) 年齢別・男女別発生状況.....	4
	(7) 傷病者の居住地別発生状況 .....	5
	(8) グループ人数別発生状況.....	5
	(9) 傷病事故の通報状況.....	6
3	救助活動.....	6
	(1) 救助隊出動状況 .....	6
	(2) ヘリコプター活用状況 .....	7
4	その他重大事故 .....	8

## 1 入山者数の状況

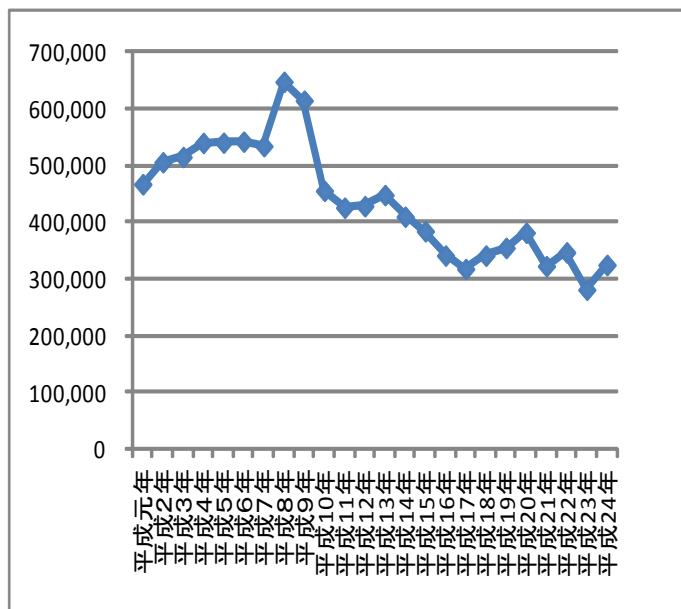
尾瀬が利用できる季節は道路開通後であり、おおよそ5月の大型連休後から10月までであるが、同期間に環境省が各登山口に登山者カウンターを設置し、年間の尾瀬入者数を計測している。この結果によれば、尾瀬の入山者は平成2年度から平成7年度まで50万人台前半で推移し、平成8、9年度にはテレビ等マスコミでの頻繁な尾瀬の頻繁紹介により60万人台前半に増加した。こうした利用者数の増加により、尾瀬の生態系の影響が懸念されたが、平成10年度には景気低迷と週末の悪天候から入山者数は約4万人に減少し、平成14年度までに40万人台で推移し、平成17年度には平成元年からの計測以来最低の約31万8千人となった。

平成20年度以降は尾瀬国立公園の拡張エリアを含めての数値だが、ここ数年は横ばい～微増傾向を示していたが、平成23年度には東北地方太平洋沖地震やそれに伴う原子発電所の事故、また7～9月にかけて尾瀬や周辺の集中豪雨による木道流失・通行止めが影響し、28万1千人と計測以来初の30万人を下回るものとなった。

今年度に関しては、約32万人と入山者数が回復傾向にある。原子力発電所の事故等による風評被害が沈静化し、入山者数が徐々に回復してくるものと思われる。

年度	入山者数 (人)	対前年比 (%)
平成元年	467,090	
平成2年	505,840	108.3
平成3年	515,090	101.8
平成4年	539,790	104.8
平成5年	540,264	100.1
平成6年	542,058	100.3
平成7年	534,196	98.5
平成8年	647,523	121.2
平成9年	614,317	94.9
平成10年	455,409	74.1
平成11年	425,807	93.5
平成12年	428,446	100.6
平成13年	448,041	104.6
平成14年	409,942	91.5
平成15年	384,251	93.7
平成16年	341,558	88.9
平成17年	317,847	93.1
平成18年	341,369	107.4
平成19年	354,901	104.0
平成20年	381,700	107.6
平成21年	322,800	84.6
平成22年	347,000	107.5
平成23年	281,300	81.1
平成24年	324,900	115.5

(平成24年3月現在)



尾瀬入山者数の推移(環境省のデータからの作成)

## 2 傷病事故の発生状況

### (1) 年別発生状況

平成24年度に尾瀬保護財団が管理する尾瀬山の鼻ビジターセンター（群馬県より管理受託）、尾瀬沼ビジターセンター（環境省より管理受託）職員が傷病事故は85件で、平成8年度からの計測以来平成20年度と同じく4番目に事故件数が多かった。

区分 年度	発生件数 (件)	傷病者内訳				
		死亡	病気	行方不明	負傷	その他
8年度	16	0		0	16	0
9年度	33	2		0	31	0
10年度	49	4		0	45	0
11年度	55	1		0	54	0
12年度	70	2		0	68	0
13年度	46	0		0	46	0
14年度	51	2		0	49	0
15年度	33	1		0	32	0
16年度	46	1		0	45	0
17年度	59	0		0	59	0
18年度	80	3		0	77	0
19年度	109	1		0	94	14
20年度	85	1		0	73	11
21年度	86	1		0	70	15
22年度	71	0		0	58	13
23年度	98	0	4	0	69	25
24年度	85	1	3	1	62	18

### (2) 地区別発生状況

地域別では例年同様鳩待峠～山ノ鼻、尾瀬ヶ原の順で多く発生した。また、鳩待峠～山ノ鼻の事故件数は全体の67.1%となり、前年度(67.3%)と変化はほとんどない。この地区での傷病事故は例年通り依然として高い割合となっている。

地区	区分	発生件数 (件)	発生比率 (%)	傷病者内訳					(参考) 平成23年
				死亡	病気	行方不明	負傷	その他	
鳩待峠～山ノ鼻(VC周辺含)		34	40.0		2		26	6	41
尾瀬ヶ原(研究見本園含)		23	27.1	1			22		25
大江湿原～尾瀬沼北岸(VC周辺含)		5	5.9				4	1	5
三平下～大江湿原		2	2.4					2	2
三平下～尾瀬沼南岸		3	3.5				1	2	1
沼山峠～大江湿原		4	4.7		1			3	9
大清水～尾瀬沼		0	0.0						3
沼尻～見晴		4	4.7				4		3
見晴～御池(平滑ノ滝、三条ノ滝含)		0	0.0						1
至仏山		2	2.4			1	1		1
燧ヶ岳		1	1.2				1		3
アヤマ平		0	0.0						1
その他		1	1.2					1	1
不明		6	7.1				3	3	2
合計		85	100.0	1	3	1	62	18	98

### (3) 原因別発生状況

傷病事故に至った原因では、木道での転倒・転落による事故が49件と圧倒的に多く、全体の57.6%を占めており、木道整備区間が多い尾瀬国立公園の特徴を示している。原因は雨や雪で滑って転倒や隣の木道に移る際の踏み外し、写真撮影や景色を眺めるなどよそ見による足の踏み外し等様々である。今年度は、斜面から転落する事故や行方不明、死亡事故、心肺停止など大きな傷病事故が多かった。平坦な道路と違い、ちょっとした気の緩みが命に関わる大きな事故にもつながりかねない。また病気などで歩行困難になる事例も少なからず見受けられるが、日常生活での体調管理や、日帰りでの強行軍の行程に原因がある場合も多く、ゆとりをもった行動と装備不可欠である。

今シーズンは5月22日、28日にAEDを使用した事例があった。救助する際に事前の取り決めが必要になってくる。心肺停止や転落事故が生じた際の職員の対応に課題が残る。

原因	区分	発生 件数 (件)	傷病者内訳						(参考) 平成23年 度	
			死亡	病気	行方不明	負傷		その他		
						自力下山	搬送	自力下山		搬送
木道上の転倒		49				39	10			67
歩道上の転倒		9				5	4			6
病気		3		3						4
疲労・低体温		7						4	3	2
落石		0								0
道に迷い		1			1					0
雪崩・雪渓崩落		0								0
落雷		1	1							0
徒渉失敗		0								0
その他		14				3		10	1	18
不明		1					1			1
合計		85	1	3	1	47	15	14	4	98

### (4) シーズン別発生状況

今シーズン最も事故件数が多かったのは春山時期だが、発生比率の差は殆どなく、各時期に分散して傷病事故が起こっていたことがわかる。また秋山時期の傷病事故が前年度比9.4%増となった。時期ごとの入山者数は不明だが、秋山時期の入山者数が多くなってきているため傷病事故も増えているものと思われる。

傷病事故を減らすためには、入山者の体調管理と事前の歩行計画、周囲への注意が必要になってくる。入山啓発活動をする際の呼びかけ方法に課題が残る。

シーズン	区分	発生 件数 (件)	傷病者内訳						(参考) 平成23年 度	
			死亡	病気	行方不明	負傷		その他		
						自力下山	搬送	自力下山		搬送
春山(4・5・6月)		30	1	1	1	21	4	1	1	33
夏山(7・8月)		27		1		14	7	5		42
秋山(9・10・11月)		28		1		12	4	8	3	23
合計		85	1	3	1	47	15	14	4	98

### (5) 月別発生状況

月別では、6月の発生件数が25件（29.4%）と最も多く、次いで7月（23.5%）となっている。この2ヶ月間の発生件数は入山者数に比例しているだけでなく、軽装や無理な行程などによる木道上での転倒・転落による負傷が原因となっていると考えられる。また、担架搬送単体と比較すると、今年度発生した搬送を伴う傷病事故は、この時期の発生率が47.4%と年間の約半分がこの時期に集中している。

区分 月	発生 件数 (件)	傷病者内訳							(参考) 平成23年 度
		死亡	病気	行方 不明	負傷		その他		
					自力下山	搬送	自力下山	搬送	
4月	0								0
5月	5	1	1		3				6
6月	25			1	18	4	1	1	27
7月	20		1		10	4	5		29
8月	7				4	3			13
9月	14		1		3	3	5	2	4
10月	14				9	1	3	1	19
11月	0								0
合計	85	1	3	1	47	15	14	4	98

### (6) 年齢別・男女別発生状況

年齢別では、40歳未満が18.9%、40歳以上が80.0%と、中高年の傷病事故割合が圧倒的に高い。特に60代の事故が目立ち、全体の43.5%にあたる。この年代は救助隊によって搬送される重傷のケースも多い。男女別の傷病事故発生率はほぼ半数となっている。

区分 年齢	発生 件数 (件)	男性							合計	比率 (%)
		死亡	病気	行方 不明	負傷		その他			
					自力下山	搬送	自力下山	搬送		
20歳未満	7				2		1	3	7.1	
20代	2							0		
30代	7				1		2	3		
40代	5		1		1		1	3	45.9	
50代	13	1			4	1	1	7		
60代	37		1		11	4	1	18		
70歳以上	13		1		7	1	2	11		
不明	1				1			1	1.2	
合計	85	1	3	0	27	6	8	1	46	54.1
比率		1.2	3.5	0.0	31.8	7.1	9.4	1.2	54.1	

		女性						比率 (%)	男女計 (%)	(参考) 平成23年 度
死亡	病気	行方 不明	負傷		その他					
			自力 下山	搬送	自力 下山	搬送	合計			
				1	2	1	4	11.8	18.8	13.3
		1			1		2			
			2	2			4	34.1	80.0	83.7
				2			2			
			5		1		6			
			13	2	2	2	19	45.9	100.0	100.0
				2			2			
0	0	1	20	9	6	3	39	0.0	1.2	3.1
0.0	0.0	1.2	23.5	10.6	7.1	3.5	45.9			

### (7) 傷病者の居住地別発生状況

例年同様に、東京都・埼玉県・神奈川県・群馬県を中心とした関東圏が大半を占めている（62.4%）。尾瀬登山者の居住地別割合をそのまま反映した結果と思われるが、近いために気軽な登山と油断してしまうことも原因と考えられ、時間や体力を考慮した計画と事前の準備が必要である。

また、近年団体ツアーの傾向にならうように大阪近郊を居住地にしている登山者の傷病事故件数が増加傾向にある。

区分	傷病者内訳							合計	(参考) 平成23 年度
	死亡	病気	行方 不明	負傷		その他			
				自力 下山	搬送	自力 下山	搬送		
都道府県									
岩手県								0	0
宮城県								0	0
秋田県								0	0
福島県		1		1				2	2
茨城県				2				2	2
栃木県				2				2	5
群馬県		1	1	6		2	2	12	10
埼玉県	1			5	3	1		10	8
千葉県				3	1			4	5
東京都				6	4	2	2	14	21
神奈川県				3	3	3		9	10
新潟県				1				1	2
福井県								0	1
長野県					2			2	1
岐阜県				1				1	0
山梨県				2				2	0
静岡県								0	1
愛知県								0	4
滋賀県								0	0
京都府				2				2	1
大阪府				4	1			5	2
兵庫県				1				1	0
奈良県								0	0
福岡県				1				1	0
島根県								0	0
岡山県								0	0
広島県								0	0
海外(中国)								0	1
不明		1		7	1	6		15	22
合計	1	3	1	47	15	14	4	85	98

### (8) グループ人数別発生状況

例年同様に2人以上の小グループの事故発生割合が52.9%と高く、搬送を伴う重度な事故も11件と多い。一方、昨年単独行やツアー登山での傷病事故が減少に転じた。（昨年度：単独行－3.0ポイント、ツアー登山－5.2ポイント）。

傷病事故発生時に手当やレスキューを真っ先に行うのは、本人や同行者であることが多い。また、重度な傷病事故の場合にはセルフレスキューが困難であることから、単独行は十分な注意が必要である。

区分 形態	発生 件数 (件)	傷病者							比率 (%)	(参考) 平成23 年度
		死亡	病気	行方 不明	負傷		その他			
					自力 下山	搬送	自力 下山	搬送		
単独	14		1	1	7	1	4		16.5	19
グループ	45	1			27	7	6	4	52.9	49
ツアー	19		1		10	6	2		22.4	27
不明	7		1		3	1	2		8.2	3
合計	85	1	3	1	47	15	14	4	100.0	98

### (9) 傷病事故の通報状況

通報の約5割が、傷病者本人がビジターセンターや山小屋へ来所し、口頭で行っている。携帯電話の通話エリア圏外が大半の尾瀬では、直近の有人施設に駆け込む必要があるため、ここからビジターセンターへ連絡が入ることもある。

なお、尾瀬沼地区の山小屋やビジターセンターには、救助隊用の簡易無線が配備されているため、近隣の山小屋に駆け込まれた場合でも、迅速に救助活動を開始できるようになっている。

通報方法	通報者					合計	比率 (%)	(参考) 平成23 年度
	本人	家族 同行者	他人	山小屋 救助隊	不明			
口頭	47	12	6	2	4	71	83.5	94
携帯電話		2	1			3	3.5	0
電話				3		3	3.5	1
アマチュア無線						0	0.0	0
その他無線				4		4	4.7	3
不明				1	3	4	4.7	0
合計	47	14	7	10	7	85	100.0	98
比率	55.3	16.5	8.2	11.8	8.2	100.0		

## 3 救助活動

### (1) 傷病者対応時の出動状況

担架搬送の場合には、ビジターセンター職員は救助隊の臨時職員としても出動している。傷病対応は複数の機関が協力して活動するため、発生件数よりも出動回数人員が多くなっている。

年度	出動区分	消防	救助隊	ビジター センター	一般	合計	発生件数 (件)
平成8年度		2	4	12	0	18	16
平成9年度		12	20	10	0	42	33
平成10年度		8	33	16	0	57	49
平成11年度		9	28	27	0	64	55
平成12年度		11	18	45	0	74	70
平成13年度		9	21	22	0	52	46
平成14年度		9	14	31	0	54	51
平成15年度		8	10	19	0	37	33
平成16年度						0	46
平成17年度		16	12	35	0	63	59
平成18年度		17	22	77	0	116	80
平成19年度		10	18	106	2	136	109
平成20年度		15	12	68	0	95	85
平成21年度		16	18	86	1	121	86
平成22年度		21	22	69	0	112	71
平成23年度		15	15	98	0	128	98
平成24年度		16	19	85	0	120	85



(2) ヘリコプター活用状況

傷病事故 85 件のうち 15 件でヘリコプターを依頼し、15 人を搬送した。地域別では山ノ鼻地区 10 件、尾瀬沼地区 5 件となった（前年度は山ノ鼻 8 件、尾瀬沼は 6 件）。今後も現場の救助組織と消防・防災ヘリとの連携を強化し、傷病者をより迅速に医療機関に引き渡せるよう体制整備を充実させる必要があると思われる。

年度	出動区分	依頼 件数	負傷者 救助	病人等 救助	行方不明 捜索	遺体 収容	収容人数 合計
平成 8 年度		2	1	1	0	0	2
平成 9 年度		5	3	1	1	0	5
平成10年度		3	3	0	0	0	3
平成11年度		5	5	0	0	0	5
平成12年度		7	5	1	1	0	7
平成13年度		6	6	0	0	0	6
平成14年度		6	4	1	1	0	6
平成15年度		6	4	1	0	0	5
平成16年度		7	7	0	0	0	7
平成17年度		12	8	4	0	0	12
平成18年度		8	3	3	0	2	8
平成19年度		11	6	4	0	0	10
平成20年度		13	10	3	0	0	13
平成21年度		9	7	2	0	0	9
平成22年度		17	14	3	0	0	17
平成23年度		14	10	4	0	0	14
平成24年度		15	11	2	1	1	15
合計		146	107	30	4	3	144

## 4 その他

### (心肺停止)

平成24年5月22日(火)に沼山峠展望台から沼山峠休憩所で福島県在住の男性歩行中に意識を失う傷病事故があった。男性は心肺停止に陥る。同僚が持参していたAEDで初期対応にあたっている際に職員が到着。救助協力し、その後蘇生する。容体が良くないため、沼山峠休憩所に担架搬送し、その後峠から防災ヘリで搬送された。

**発生場所** 沼山峠展望台から沼山峠休憩所

**発生状況** さいたま市立館岩青少年自然の家のメンバーで、沼山峠から同僚を含めた複数人で入山。沼山峠展望台の手前で歩行中に意識を失い、心肺停止状態になる。

### 対応概要

- 10:00頃 尾瀬沼ビジターセンター職員から第一報。  
傷病者の同僚がAEDで初期治療を施す。職員治療に参加
- 10:05頃 尾瀬沼ヒュッテに防災ヘリを要請。
- 10:10頃 応援のビジターセンター職員現場に到着。
- 10:25頃 御池ロッジから担架。3名出動。
- 10:45 応援のビジターセンター職員現場に到着。
- 10:47 沼山峠休憩所に救急車到着。  
救急隊員が現場に向かう。
- 11:04 救急隊員が現場に到着。
- 11:20 担架搬送開始。
- 11:50 ヘリ搬送終了。  
ドクターヘリの医師が防災ヘリに乗り、再度心肺停止状態になった傷病者に対応。会津若松の中央病院へ向かう。

以上をもって対応概要を終了とする。

### (落雷事故)

平成24年5月28日(月)に竜宮十字路付近で東京都在住の男性が歩行中に雷に打たれる事故が起こった。男性は心肺停止に陥る。竜宮小屋に通報があり、小屋主がAEDを持って現場に駆けつけるが、蘇生は不可。消防と警察による現場検証の後防災へりに遺体が回収される。

**発生場所** 竜宮十字路付近

**発生状況** 同伴者の女性と長沢新道を竜宮小屋方面に下り、林内を抜けた竜宮十字路手前で雷に打たれる。

#### 対応概要

10:00頃 雲が出て雷が鳴る。

10:30頃 落雷による傷病事故発生。

竜宮小屋に通報があり、小屋主がAEDを持って現場に向かう。

12:45頃 消防と警察が鳩待峠に到着。

13:29 消防と警察が山の鼻ビジターセンターに到着。

その後現場検証が行われる。

14:00頃 晴れ間が出る。

14:40 防災へり到着。

15:03 防災へり傷病者を回収。

以上をもって対応概要を終了とする。

## (行方不明)

平成24年度6月13日(水)に単独で至仏山に登った群馬県在住の女性が、帰宅予定時刻になっても下山せず、警察へ通報。山頂付近は昼過ぎから濃い霧が発生し、視界が明瞭。行方不明になる。片品村遭難対策救助隊に捜索を依頼。翌日捜索開始。昼過ぎにタル沢から南に下った地点で、行方不明者を生存発見。両親と共に帰宅する。

**発生場所** 至仏山

**発生状況** 単独で至仏山に登山。昼前から濃い霧が発生。昼過ぎに登山ルートから外れ遭難事故発生。

### 対応概要

6月13日(水)

- 8:00頃 至仏山に入山。
- 11:00頃 至仏山山頂に到着。  
既にガスが発生。視界は不明瞭。
- 15:00頃 オヤマ沢田代通過。  
その後残雪多く、ルート・視界共に不明瞭。  
ルートの目印を探して尾根を歩き南下。
- 17:50 ビバークの準備をする。
- 18:40 1回目の捜索を実施。  
20時まで捜索を実施したが未発見。
- 20:30 警察へ通報。2回目の捜索を実施。
- 20:55 沼田警察署から山の鼻ビジターセンターに連絡。  
捜索の打合せと防災ヘリの出動の検討をする。
- 22:17 2回目の捜索隊至仏山山頂に到着。
- 22:50 片品村遭難対策救助隊に捜索を依頼。

6月14日(木)

- 3:55 捜査隊川上川経由で山の鼻に下山。
- 8:20 捜索開始(谷川岳警備隊5人、片品救助隊4人、財団2人)。  
悪沢岳まで一斉捜索。その後ルートを検討。  
鳩待峠での連絡要員は、消防1人、財団2名。
- 9:47 福島県の防災ヘリ捜索開始。
- 11:25 群馬県の防災ヘリ捜索開始。
- 13:00 タル沢から南下した地点で生存発見。
- 14:20 行方不明者鳩待峠に到着。
- 17:20 行方不明者帰宅。

以上をもって対応概要を終了とする。

### (転落事故)

平成24年7月21日(土)に鳩待峠～山ノ鼻間の至仏山展望所において、東京都在住の男性が、木道から外れて谷へ転落する事故が起こった。斜面途中の木に引っかかり一命を取りとめるが、右足首を骨折し自力歩行不可。鳩待山荘の小屋主が現場に急行。鳩待峠入山口啓発活動をしていたビジターセンター職員も遅れて現場に向けて出発。現場到着後尾瀬ロッジの小屋主も合流し、3名で引き上げ作業を開始。引き上げ後救助隊が合流し鳩待峠まで担架搬送。その後救急車で沼田の病院に搬送される。

**発生場所** 鳩待峠～山ノ鼻間（至仏山展望所）

**発生状況** 同行者とともに鳩待峠から入山。明け方激しい雨が降り、木道が滑りやすい状況下、鳩待峠～山ノ鼻間の至仏山展望所で滑って木道から外れて谷へ転落。斜面途中の木に引っかかり一命は取りとめる。

### 対応概要

- 9：12 鳩待山荘に通報。  
小屋主が現場に急行。
- 9：15 入山口啓発活動第1部終了。  
一報を受けビジターセンター職員も現場に向かう。
- 9：33 職員現場に到着。
- 9：51 職員が牽引ロープをとりに鳩待峠に引き返す。
- 10：01 職員現場再到着。  
尾瀬ロッジの小屋主が合流。
- 10：14 引き上げ作業開始。
- 10：29 引き上げ作業完了。  
骨折している右足首を固定。
- 10：39 救助隊合流。  
担架搬送開始。
- 11：23 鳩待峠到着。
- 11：31 救急車鳩待峠を出発。

以上をもって対応概要を終了とする。

近年転落・滑落による傷病事故が増えている。今回のように単独行者の事故の場合、発見や治療が遅れ、命を落とすことになりかねない。尾瀬の利用者に対する十分な注意喚起を促す必要がある。